

## 編集後記



唐突ですが、下の2枚の写真をご覧ください。  
落としたバトン以外で、何か違和感はありませんか？



© 共同通信社

写真は2008年北京五輪・陸上男子400mリレーの場面。  
当時のチームリーダーの朝原宣治選手のお話を聴く機会がありました。

この五輪において、日本チームは、この競技で史上初めてという  
メダルを獲得し、日本中が喜びに沸きました。

しかし、ボルトを擁するジャマイカと並んで優勝候補だった米国チームが  
エースのタイソン・ゲイにつなぐ場面でバトンを落とすという痛恨のミス  
を犯し失格となったことで、日本はラッキーでメダル（銅）を取れた、  
運が良かったなという人がいたそうです。

でもそれは違う、運だけの問題ではないと、氏はキッパリとおっしゃいました。

「米国チームのゼッケンは手書きで“USA”と書かれたものだったのです。」

オリンピックは最高の晴れ舞台。米国チームは、日本をはるかに上回る  
実力を持つスーパースター集団で、世界に名だたるコーチや有名トレーナー  
同伴で颯爽と金メダルを獲得すべく北京に乗り込んでいながら、実は縁  
の下の力持ちとなって地道に汗をかくてくれる裏方がいなかったのだと  
言います。裏事情としては、あらかじめ、公式ゼッケンを渡す時間と  
場所に米国チームが行かなかった為ゼッケンが無く、それでレースの直  
前になってあわてて間に合わせの無地のゼッケンに、黒マジックで“USA”  
と手書きしたのだそうです。そんなバタバタの状況のままレースに臨んだ  
米国チーム。バトンミスは決して運だけの話ではありません。



© 共同通信社

日本には、チームのことを考えて、裏方として頑張ってくれたスタッフが  
いました。

個々人では劣っていたかもしれないけど**組織力として日本は米国を上回っていた**  
のだと、氏は言いました。

ワクワクした2020年東京五輪開催決定からわずか3ヶ月。

あのプレゼンテーションの輝かしい場にいた猪瀬都知事が辞職するに至りました。

五輪招致のスタッフには恵まれたけど、もしかすると都知事としての周りの  
スタッフには残念ながら恵まれていなかったのかもしれないと、朝原氏の話  
を思い出した次第です。



私どもアヴニール労務事務所もまた、皆様の職場のよき外部スタッフでありたい  
と思います。皆さまの職場を守り、またよりよい職場作りを支援させていただく  
為、2014年もいっぱい汗をかく所存です。強大な相手にも負けない**強い組織づくり**  
を、職員一同全速力で応援させていただきますので、どうぞ新年もよろしく  
お願いいたします。皆さまにとって良き年となりますよう。m(\_)\_m